商　品　仕　様　書

1. 形　式

定　　格	定格入力信号電圧　　± 24 V 定格信号消費電流　　20 mA
型式認可番号	対象外につき不要
信号配線方式	2 線無極性配線方式
信号伝送方式	割り込み式時分割多重伝送方式
伝送発信周波数	10 kHz ± 1 kHz
誤り検定方式	奇数パリティチェック、サムチェック
信号形態	スタート信号 / チャンネル信号 / 負荷制御信号 / 監視信号 / エンド信号
制御可能数	負荷 1 1 回路　または、1 グループ　または、2 パターン(点灯・消灯) 負荷 2 1 回路　または、1 グループ
アドレス設定範囲	【負荷1制御用アドレス】 ・個別　　0-1 ～ 63-4　　・調光　　1 ～ 16 ・グループ　1 ～ 127 ・パターン　1 ～ 72 【負荷2制御用アドレス】 ・個別　　0－1 ～ 63－4　・調光　　1 ～ 16 ・グループ　1 ～ 127 【熱線センサ「入／切」用アドレス】 ・リレーT/Uアドレス　0－1 ～ 63－4
アドレス設定方式	光通信によるワイヤレスアドレス設定方式
適合子器	・WRT3365　フル2線式リモコン　熱線センサ付自動スイッチ (子器・広角検知形)(天井取付形) ・WRT3375　フル2線式リモコン　熱線センサ付自動スイッチ (子器)(天井取付形) ・WRT3367　フル2線式リモコン　熱線センサ付自動スイッチ (子器・子器増設機能付・広角検知形)(天井取付形) ・WRT3395　フル2線式リモコン　熱線センサ付自動スイッチ (子器)(壁埋込形) ・WN56059 ビル用 熱線センサ付自動スイッチ(子器)(天井取付形) ・WN5685K ビル用 熱線センサ付自動スイッチ(子器) (広角検知・天井取付形) 6 台まで接続可能　総配線長　100 m 以内
適合伝送ユニット	WRT2000系列・WRT2000K系列・WRT2040系列・WRT2050系列 伝送ユニット
結線方式	押締端子式

2. 保証品質

2-1　形状、材料及び色彩　　添付商品仕様図による

商 品 仕 様 書

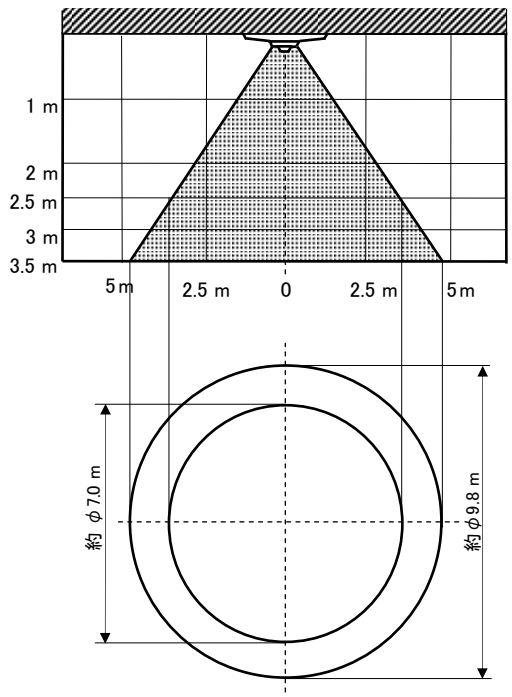
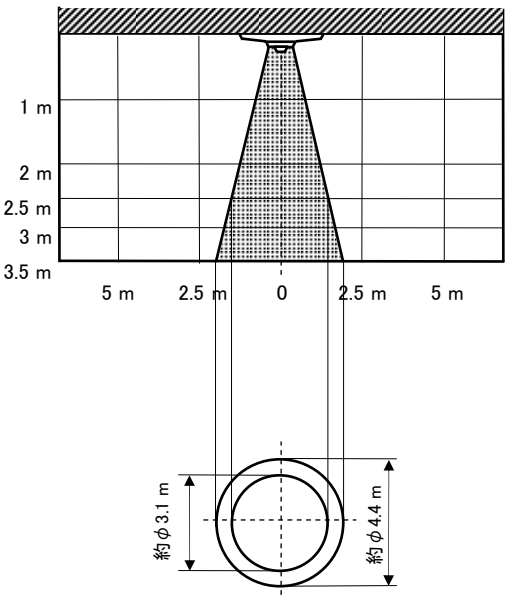
2-2 性能

試験場所は常温(5 ℃ ～ 35 ℃)、常湿(相対湿度 45 % ～ 85 %)

定格信号消費電流	20 mA 以下	
信号動作電圧範囲	± 18 V ～ ± 30 V	
温 度 上 昇	外郭部	10 ℃ 以下
絶 縁 抵 抗	充電部 ― 非充電金属部	10 MΩ 以上
耐 電 圧	充電部 ― 非充電金属部	500 V 1 分間
端 子 強 度	締付けトルク	1.2 N･m 1 分間
光信号検知範囲	アドレス設定送受信部から	1 cm 以内

2-3 センサ部の性能

試験場所は常温(5 ℃ ～ 35 ℃)、常湿(相対湿度 45 % ～ 85 %)

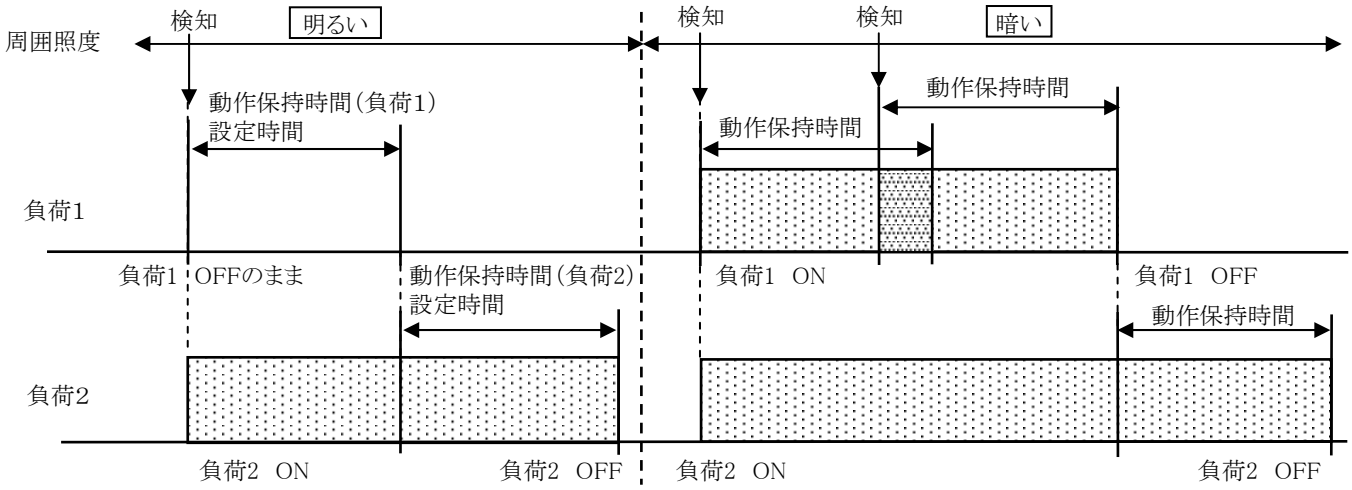
検知範囲限定	専用フード無	専用フード有
有効検知距離	約3.5 m	約3.5 m
検知範囲	ビーム状(3.5 m直下で約9.8 mの円内)	ビーム状(3.5 m直下で約4.4 mの円内)
検知方式	熱線レベル変化分検知	熱線レベル変化分検知
検知エリア数	30分割(内中心部分14分割)	14分割
検出動作速度	0.3 m/s ～ 1 m/s	0.3 m/s ～ 1 m/s
検出温度差	3 ℃以上	3 ℃以上
検知範囲		

※検知範囲は、手の動きが検知できるように、床より70 cmの高さを目安にして、設定してください

品番	WRT3364K	品名	フル2線式リモコン 熱線センサ付自動スイッチ (光アドレス設定式)(親器・広角検知形) (明るさセンサ付)(天井取付形)	改	

3. 動作

(1)　人体を検知すると、検知面の青色ランプが点滅します。
(2)　検知範囲は、検知部を調整することにより全方向約 15 °　検知範囲の変更が可能です。
(3)　負荷1及び負荷2の点灯時間は、動作保持時間調整ツマミを調整することにより、
約 10 秒～約 30 分まで調整できます。(約 10 秒は、点検時のみご使用下さい。)
(4)　動作保持時間中に再検知しますと、その時点より再び動作が始まります。
(5)　動作周囲照度は、明るさセンサスイッチにより「暗め」(約5 lx以下)から「明るめ」
(約1000 lx以上)まで調整が行えます。
周囲照度が動作周囲照度より暗くなり人体を検知すると負荷1をONします。
(「明るめ」方向にツマミを設定すると、周囲照度に関係なく人体を検知すると負荷1を
ONします)
(6)　負荷2は、周囲照度に関係なく人体を検知するとONします。



4. 環境条件

4-1　使用場所

(1)　屋内にて使用してください。
(2)　高温、多湿の場所に設置しないでください。
(3)　15 A 以上の電流が流れる配線からは、10 cm 以上離してください。

4-2　使用温度範囲　　-10 ℃ ～ +40 ℃

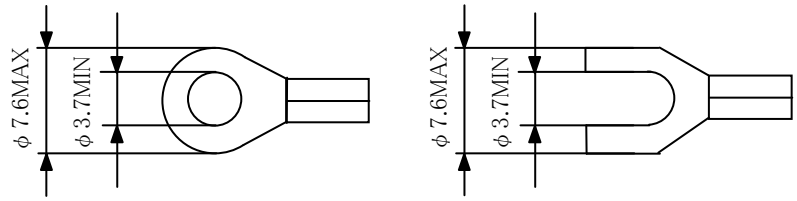
5. 使用条件

5-1　適用電線

・フル2線信号線側　〔単線〕: φ 0.65 ～ φ 1.6 〔より線〕: 0.75 mm²～ 2.0 mm²
・子器増設線側　　〔単線〕: φ 0.5 ～ φ 1.2　〔より線〕: 0.5 mm² ～ 0.75 mm²

注)　適用電線以外は絶対に接続しないでください。また異種の電線(1つの端子での単線とより線の組合せ及び、異径電線の組合せなど)を接続しないでください。
誤って使用しますと、発熱したり接続不良を起こす原因となります。

5-2　適用圧着端子

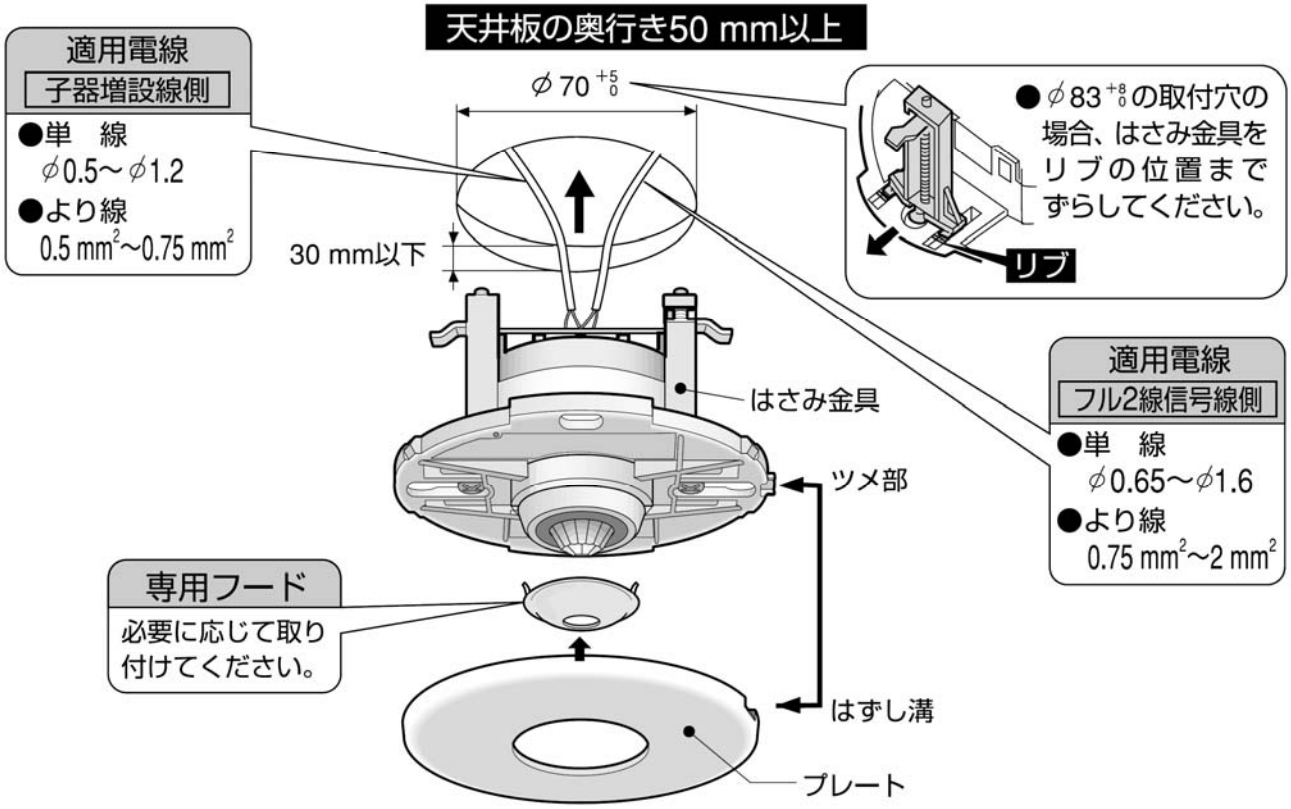


品番	WRT3364K	品名	フル2線式リモコン　熱線センサ付自動スイッチ (光アドレス設定式)(親器・広角検知形) (明るさセンサ付)(天井取付形)	改	

5-3　取付方法

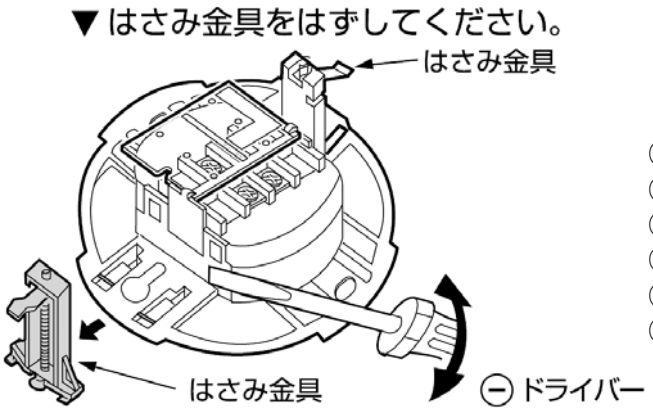
（1）　ボックスなし工事の場合

・天井板の厚み 30 ㎜以下、奥行き 50 ㎜以上の場所に取付けてください。



（2）　ボックス工事の場合

・付属のはさみ金具をはずして、ボックスに直接取付ねじで取付けてください。



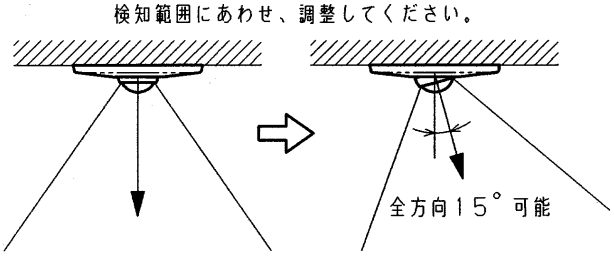
〔適合ボックス〕
（JIS C 8340及びJIS C 8435に基づく）
①八角アウトレットボックス丸孔カバー付
②八角コンクリートボックス丸孔カバー付
③中形四角アウトレットボックス丸孔カバー付
④中形四角コンクリートボックス丸孔カバー付
⑤プレキャストコンクリート用八角アウトレットボックス
⑥プレキャストコンクリート用八角コンクリートボックス

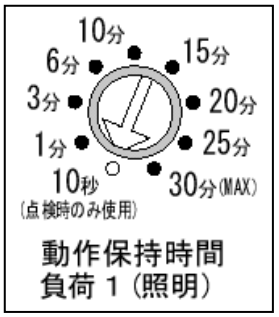
品番	WRT3364K	品名	フル2線式リモコン　熱線センサ付自動スイッチ (光アドレス設定式)(親器・広角検知形) (明るさセンサ付)(天井取付形)	改	

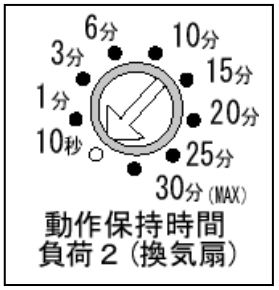
5-4　検知範囲の調整方法

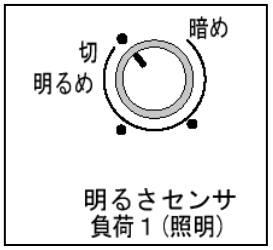
(1)　各ツマミを次のように設定してください。
　　動作保持時間　負荷1:「10 秒」
　　動作保持時間　負荷2:「10 秒」
　　明るさセンサ　　負荷1:「切　明るめ」
(2)　あらかじめ検知範囲は真下方向にセットされていますので、
　　検知部を左右に回してください。
　　検知部は全方向に 15 °　回転します。

注)　システムを立ち上げてから(フル2線信号が供給)、
　　約 50 秒間で、検知可能状態となります。

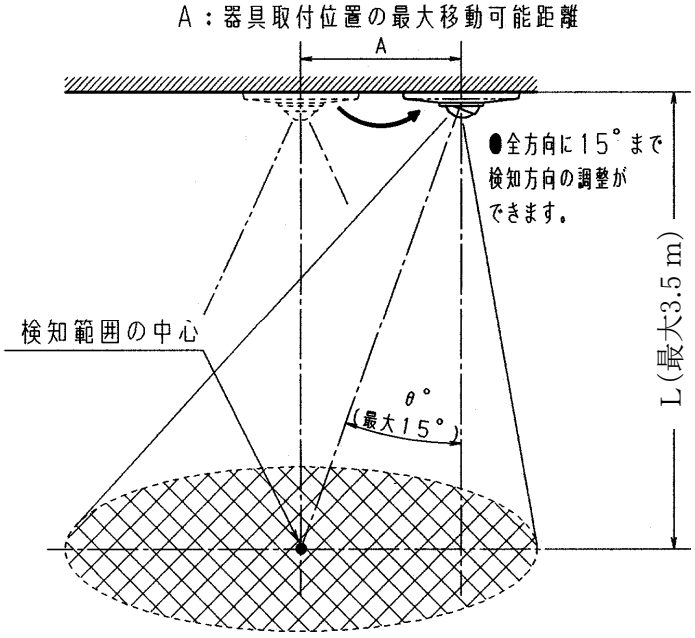








■検知範囲の真上に器具取付けできない場合



L:天井からの高さ	A:器具取付位置の最大移動可能距離
1.5 m～1.8 m	0.4 m
1.9 m～2.2 m	0.5 m
2.3 m～2.6 m	0.6 m
2.7 m～2.9 m	0.7 m
3.0 m～3.3 m	0.8 m
3.4 m～3.5 m	0.9 m

(3)　検知範囲の設定・確認方法

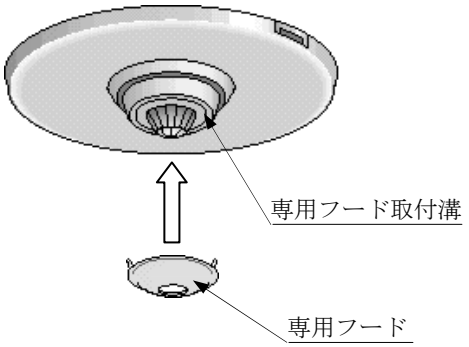
① 床面の検知範囲を想定します。
② 検知範囲に検知面の向きを目安で合わせます。
③ 検知範囲を確かめるため、一旦、検知範囲の外に出ます。
④ 検知させたいところまで近づきながら、検知面の青色ランプの点滅を確かめます。

＊青色ランプが点滅するところが、検知範囲になります。

⑤ 2～3箇所で、③～④を繰り返し、検知範囲を確かめます。

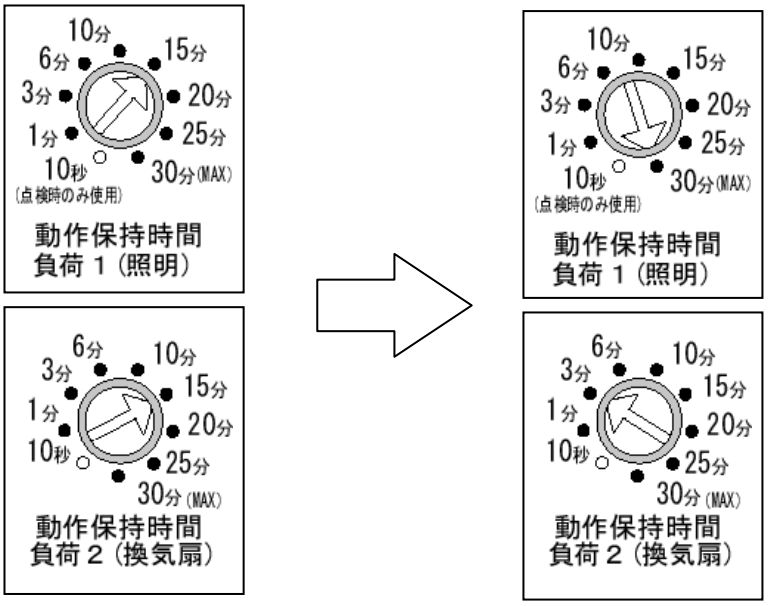
※検知範囲を移動させたいときには、検知面の向きを変えてください。

(4)　専用フードによる検知範囲の設定
・専用フードを検知面外周にある溝に取付けることにより、検知範囲を限定することが可能です。
（検知範囲変化は、 2-3　センサ部の性能参照）



5-5　動作保持時間の調整方法

(1)　あらかじめ約 15 分にセットしていますので、取付、使用場所に合わせて時間を調整してください。

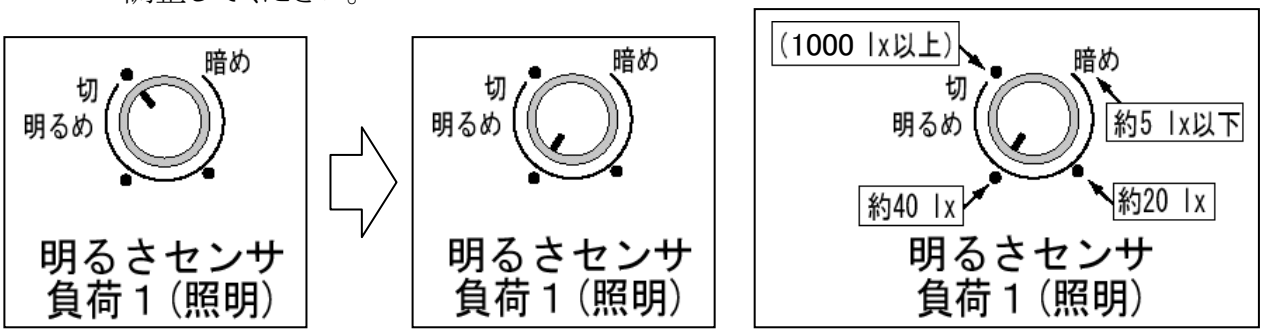


(2)　動作保持時間セット後、必ず動作をさせて時間を確認してください。
注）システムを立ち上げてから(フル2線信号が供給)、約 50 秒後に、検知状態となり、動作確認をすることができます。ただし、その間でも、アドレス設定は行えます。

品番	WRT3364K	品名	フル2線式リモコン　熱線センサ付自動スイッチ (光アドレス設定式)(親器・広角検知形) (明るさセンサ付)(天井取付形)	改	

5-6　動作周囲照度の調整方法

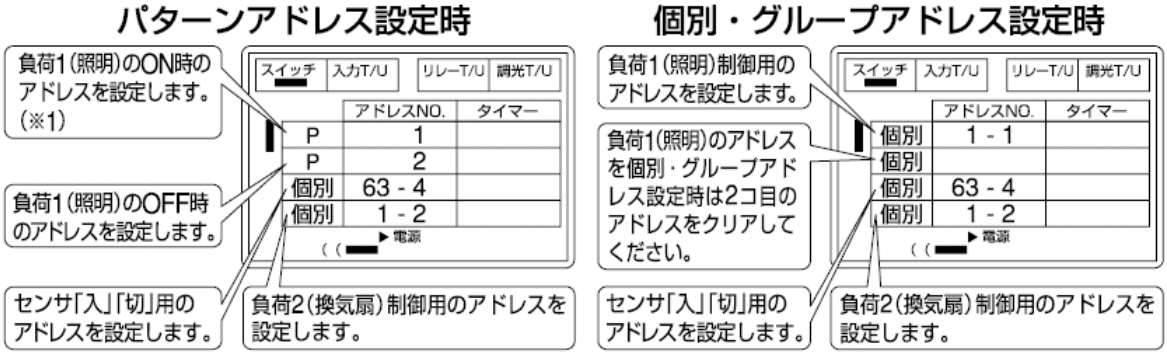
(1) あらかじめ「明るめ」にセットしていますので、取付、使用場所に合わせてツマミを調整してください。



明るさの参考照度

(注) 昼間でも人体検知により負荷1をONさせたい場合は「明るめ」いっぱいに回した状態で使用すれば、周囲照度に関係なく人体を検知し負荷をONします。

5-7　アドレスの設定方法例



注)　①システムを立ち上げてから(フル2線信号が供給)、約 50 秒後に、検知状態となり、動作確認をすることができます。また、その間(約 50 秒)は、アドレス設定は、行うことができます。

②アドレス設定は、WRT9500Kアドレス設定器〔別売〕又は、WRT9600小形パターン・グループ設定器〔別売〕で行ってください。

③タイマー設定はできません。

④個別・グループアドレス設定時は、1 コ目 (※1) のアドレスのみ設定してください。

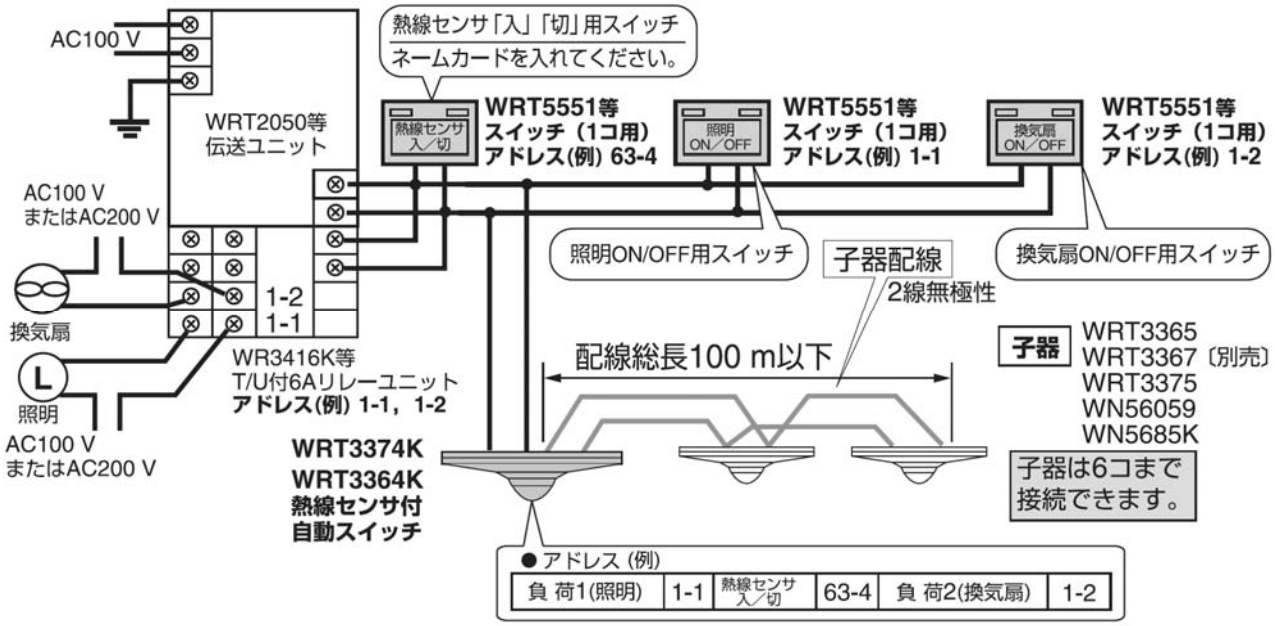
⑤センサ「入」「切」を使用しない場合は、アドレスをクリアしてください。

⑥パターン・グループ制御を使用する場合は、別途、必ず制御内容の設定を行って下さい。

6. 接続方法例

- スイッチ(WRT5551等)で熱線センサの検知動作の「入」、動作停止「切」を切り換えることができます。
  - ・「入」（赤表示）・・・・・熱線センサの検知に合わせ、照明・換気扇が動作します。
  - ・「切」（緑表示）・・・・・熱線センサの検知が入っても、照明・換気扇は動作しません。

  〔熱線センサ「入／切」のアドレスを設定しない場合は、連続モードになります。〕
- スイッチ(WRT5551)にネームカード〔同梱〕を入れるとスイッチの用途が分かりやすくなります。切り取ってご使用ください。
- 壁スイッチで、動作保持時間内に照明を点滅させることがある場合、必ず熱線センサ「入」・「切」スイッチを設置し、熱線センサの検知動作を「切」にしてから、照明の点滅を行って下さい。熱線センサの検知動作を「切」にしないと、動作が継続された状態のままとなるため、照明が点滅することがあります。
- 負荷2は明るさセンサに関係なく動作しますので、換気扇は負荷2に設定してください。



注）・負荷が点灯状態で、熱線センサ「入」「切」用スイッチを「切」にした場合は、本商品の内部タイマは、クリアされます。また、負荷は、ON状態のままとなります。

・負荷がON状態で、壁スイッチにより負荷をOFFさせた場合には、本商品の内部タイマは、クリアされます。

・負荷1が熱線センサでONし、壁スイッチで負荷1をOFFした場合、負荷2動作保持時間に移行します。

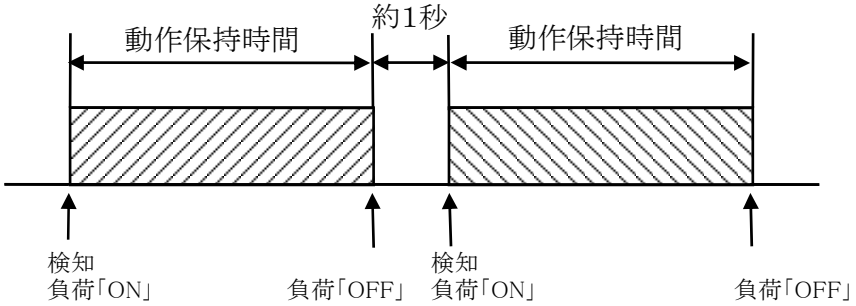
7. 使用上の注意事項

(1) システムを立ち上げてから(フル2線信号が供給)、負荷がONしている場合は、約50 秒＋動作保持時間後に負荷のOFF制御を行います。

(2) 雷や太陽や自動車のヘッドライト等の強い光、誘導障害(アマチュア無線等)、小動物の通過等により、動作することがありますが本商品の故障ではありません。

(3) レンズの表面がほこりや水滴で汚れると、不動作の原因になりますので柔らかい乾いた布等で、キズを付けないように拭き取ってください。

(4) 負荷「OFF」後、約1 秒間センサは働きません。



(5) 殺虫剤等の化学薬品を本商品に直接かけないようにしてください。

(6) 検知範囲内に人が入ったり動いたりする時の熱線の変化をとらえて動作する方式ですので、検知範囲内で静止している間は検知しません。

(7) ヒーターの熱やエアコンの風等の影響を受け、動作することがありますが本商品の故障ではありません。

(8) 検知範囲内にカーテンや植木等がありますと、そのゆれで動作することがあります。

(9) 加湿器の水蒸気と周囲温度との差で動作することがありますが本商品の故障ではありません。

(10) この検知スイッチは、検知範囲内に人が入ったり、動いたりする時の微妙な熱線の変化を検出する方式のものです。何らかの原因で、検知範囲内の温度が急激に変化した時は、検知動作をしたり、周囲温度が35 ℃～40 ℃で、人体の顔面と背景温度差が3 ℃以内の場合は、温度差の検出ができないため、検知動作しない場合があります。

(11) 壁スイッチにて、動作保持時間内に照明を点滅させることがある場合、必ず熱線センサ「入」・「切」スイッチを設置し、熱線センサ入力信号を「切」にしてから、照明の点滅を行ってください。
熱線センサの入力信号を「切」にしないと、動作が継続された状態のままとなるため、動作保持時間後に照明が点滅することがあります。

(12) センサ「入」「切」のアドレスは、リレー制御用T/Uおよび、T/U付リレーユニットなどと同一チャンネルには設定しないでください。誤動作・不動作の原因となります。

(13) グループにてON/OFFされる場合、壁スイッチ等でグループ内回路を間引き点灯等されますとグループスイッチの状態と実際の負荷の状態が異なり正常に動作しない場合があります。グループ内回路を間引き等される場合は、パターン制御にてご使用ください。
アドレスをグループに設定された場合、施工時、グループの表示状態により人を検知してもON信号が出ない場合があります。一度、熱線検知し動作保持時間後、OFF(緑)すれば、以降は通常動作しますので施工時など、グループ表示とリレーの状態が一致しない(間引き点灯等の)場合は一度検知エリアの外に出てから動作チェックを行ってください。

(14) 太陽光が直接商品に当る場所への施工及び、ご使用の際、直接商品へ太陽光が当らないようにしてください。太陽光によりアドレス設定が正常にできない、または正常に動作しない場合があります。

8. 施工上の注意事項

(1)器具には指定された電線以外は使用しないでください。
誤って使用しますと、発熱したり接触不良を起こしたりする原因になります。

(2)取付高さが高くなりますと検知範囲が拡がりますので、必ず検知範囲を確認し、不要な人を検知しない様にしてください。特に2.5 m以上の高さに設置の場合、専用フードなしでご使用されますと、検知範囲よりも外で検知する場合がありますので、ご注意ください。

(3)内部に電子部品を使用していますので落としたり、強い衝撃を与えますと、故障の原因となりますので、ご注意ください。

(4)光電式センサと違い熱線検知方式ですので、複数台数使用しても干渉して使用不能となることはありません。

(5)天井板の奥行きが 50 ㎜以上の場所に取付けてください。

(6)検知面の青色ランプが見にくいことがありますので、検知範囲の確認は、負荷のON/OFFを確かめながら行ってください。

負荷が取り付けられてない場合は、青色ランプの見やすい夕方に行ってください。

(7)下記のような場所には取付けないでください。
① エアコンの吹き出し口や高熱を発生する器具の近くや対抗するところ等、急激な温度変化のある場所
② 雷・太陽・自動車のヘッドライト等の強い光を直接うける場所
③ 白熱灯照明器具から 40 ㎝以内の場所
④ 大理石等、太陽光線を強く反射する床面のある場所
⑤ 照明器具が検知範囲に入る場所
⑥ カーテンやのれんや植木等動くもの、ゆれるものが置かれている場所
⑦ 間仕切り等、遮光物体のある場所
(熱線(遠赤外線)は、透明なガラスでも大半が遮断されます。従ってガラスの向こう側での人間の動きはほとんど検知しません)

(8)検知回数の多い所(人通りの多い通路、廊下、トイレやマンションのエントランスホールなど)に取付け照明を制御する場合は、白熱灯器具または電子蛍光灯器具、高周波点灯蛍光灯(インバータ)器具を選定してください。(グロー式蛍光灯、ラビット式蛍光灯、電球型蛍光灯は、極端に寿命が短くなります。)さらに、点滅回数が少なくなるよう、動作保持時間調整ツマミを30 分にしてください。また、熱線センサ「入」・「切」スイッチを「切」にし、人通りの多い時間帯は連続点灯してください。

9. 安全確保のための使用上及び設計上の禁止事項

下記の項目を満足されていない場合のトラブルに関しては責任を負いかねます。

9-1　商品のご使用に際しては、以下の点を遵守ください

(1)本商品は、主として照明制御用として開発した商品です。
従いまして、セキュリティ用途(防犯、防災、その他人命に関わる用途)へのご使用は、お避けください。
また、使用用途が一般照明制御以外で安全性が求められる場合は、
・システムとして、冗長性を設け、単一故障では不安全にならない様に図ってください。
・保護装置、保護回路等を設け、システムとしての安全性を図ってください。

※この商品をシステムとして組み込まれた盤等にも安全確保のため、
上記事項を必ず明記下さい。

9-2　使用上の禁止事項

(1)適合子器以外と組合せて使用しないでください。発熱、発火等の原因になります。

9-3　施工上の禁止事項

(1)端子ねじは 0.5 N･m ～ 1.0 N･m のトルクでしっかり締めてください。
締付が弱いと誤動作、動作または、発熱し、発火する恐れがあります。
(2)浴室等の湿気の多い場所や、雨水のかかる屋外、屋側へは取付けないでください。
故障の原因になります。
(3)適用電線以外は絶対使用しないでください。また、異種の電線(1つの端子での単線とより線の組合せ及び、異径電線の組合せ等)を接続しないでください。
誤って使用しますと、発熱したり接続不良を起こす原因になります。
(4)本商品の施工は必ず本仕様書の記載内容(5.使用条件)をおまもりください。
誤った施工をされますと本商品の動作不良・端子部の異常発熱・発火等の恐れがあります。

10. 品質保証について

10-1　保証期間

・本品の品質保証期間は商品のお買上げ日(お引き渡し日)より1 年間です。

10-2　保証内容

・本仕様書、取扱説明書、本体ラベル等の注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。

10-3　保証の免責事項

・保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。
(1)使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷。
(2)お買上げ後の取付け場所の移設、運送、落下などによる故障及び損傷。
(3)火災、地震、水害、落雷、その他天災地変及び、公害、塩害、ガス害(硫化ガスなど)、異常電圧、指定以外の使用電源(電圧、周波数)などによる故障及び損傷。
(4)車両、船舶等に搭載された場合に生ずる故障及び損傷。
(5)施工上の不備に起因する故障や不具合。
(6)法令、取扱い説明書で要求される保守点検を行わないことによる故障及び損傷。